〔2011年度学部等研究教育補助金等報告〕

ツィター系楽器カーヌーンを通じての異文化理解教育研究

松本奈穂子[*1]・福永千恵子[*2]

本研究ではカーヌーンと箏の基礎演奏技術習得および音律理論を学ぶことで異文化理解を目指した。申請額よりも減額されたため，申請当時の計画の一部は実現不可能となった。本稿では，一連の教育の中で，最も大きな催事となったトルコ人演奏家のレクチャーコンサートについて，詳細を報告する。

I. レクチャーコンサートおよび講師の概要

2011年８月12日金曜日，10時～13時に，10号館スタジオ・ソナーレにて『トルコのカーヌーン：演奏と理論』というレクチャーコンサートを開催した。招聘した講師はトルコのカーヌーン演奏家ハリール・カラドゥマン Halil Karaduman 氏である。企画・司会・通訳は松本が行った。カラドゥマン氏は1959年トルコ南東部出身のトルコ文化観光省所属演奏家で，イスタンブル工科大学附属トルコ国立音楽院を卒業している。2007年にカーヌーン教則本（DVD 付）を出版している。伝統的な演奏も保持しつつ，世界の様々なミュージシャンとのコラボレーションなどにも積極的な人物であった。イスタンブル在住で，トルコを代表する演奏家の一人であったが，残念なことに2012年10月ドイツ演奏旅行からの帰途に亡くなった。これからも益々円熟した活躍が期待されていただけに，たいへん惜しい人材をなくしたことになる。

当日は，本学の学生の他に，日本人でアラブ音楽の演奏活動をしている方々もおいでいただくことができ，良い聴衆に刺激されてカラドゥマン氏も集中度の高い演奏をご披露くださった。

II. レクチャーコンサートの内容

レクチャーコンサートは，まず第一部のはじめにカーヌーンの基本的な構造および様々なテクニックと奏法の説明があり，その後，代表的なマカーム（旋法）の説明とタクスィーム演奏（即興）が行われた。第二部では，民謡や付加リズムの軽快な曲，古典のレパートリーなど，トルコ特有の楽曲やトルコに縁の深い曲（モーツァルトのトルコ行進曲など）をいくつか選んでいただき，演奏をしていただいた。

提出日2012年９月26日　　受理日2012年11月28日
＊１教養学部芸術学科音楽学課程准教授　＊２教養学部芸術学科音楽学課程教授

曲目は以下のとおりである。

1.『ヒジャーズのタクスィーム Hicaz Taksimi』
2.『ウッシャークのタクスィーム Uşşak Taksimi』
3.『カルジュアルのタクスィーム Karcığar Taksimi』
4.『ラーストのタクスィーム Rast Taksimi』
5.『スーズィナク・タクスィーム Suzinak Taksimi』
6.『複数のマカームによるタクスィーム（ウッシャーク～カルジュアル～スーズィナク～ラースト～ウッシャーク～ヒジャーズ Uşşak ～ Karcığar ～ Suzinak ～ Rast ～ Uşşak ～ Hicaz)』
7.『ムハッイェル・キュルディー・タクスィーム Muhayyer Kürdi Taksimi』
8.『ムハッイェル・キュルディー・サズ・セマーイスィ Muhayyer Kürdi Saz Semaisi』（サーディ・ウシュライ Sadi Işılay［1899-1969］作曲）
9.『シェフナーズ・タクスィーム Şehnaz Taksimi』
10.『シェフナーズ・サズ・セマーイスィ Şehnaz Saz Semaisi』（ケメンチェジ・ニコラキ Kemençeci Nikolaki［?-1915］作曲）
11.『シェフナーズ・ロンガ Şehnaz Longa』（サントゥーリ・エトヘム・エフェンディ Santuri Ethem Efendi［1855-1926］作のシェフナーズ旋法によるロンガという舞踊曲。これは女子十二楽坊の「自由」の原曲でもある。）
12.『スルターニイェギャー・スィルト Sultaniyegah Sirto』（サーディ・ウシュライ Sadi Işıla［1899-1969］y 作曲）
13.『ニハーヴェント・タクスィーム Nihavent Taksimi』
14.『ニハーヴェント・ロンガ Nihavent Longa』（ケヴセル・ハヌム Kevser Hanım［1887-1963］作曲）
15.『トルコ行進曲 Türk marşı』（ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト Wolfgang Amadeus Mozart［1756-1791］のピアノ・ソナタ第11番，K.331，第 3 楽章）
16.『ヒジャーズ・ガリプ・タクスィーム Hicaz Garip Taksimi』
17.『ウルファの雲にけむる山々 Urfanın etrafı dumanlı dağlar』（ウルファ地方の民謡。ヒジャーズ・マカームが基本となるが，古典よりも第 2 音は低く，第 3 音は高くなる。）
18.『キュタヒヤの泉 Kütahya'nın pınarları』（キュタヒヤ地方の民謡。ムハッイェル・キュルディーのマカームに基づく）
19.『あの山々の峰に達すれば Şu dağların yükseğine erseler』(中央アナトリアの 9 拍子の民謡)
20.『アクサライにて Aksaray'dan geçer iken』（イスタンブルのロマによって100年ほど前に作られたという都市民謡。2 + 2 + 2 + 3 のアクサックと呼ばれる 9 拍子。デュギャー・マカーム dugah makam に基づく。）
21.『パソ・ドブレ Paso Doble』
22.『キャーティビム Katibim』（イスタンブルの民謡。アメリカのアーサー・キットが本曲を原曲として『ウスカ・ダラ』という曲を発表，日本では1954年 9 月，江利チエミによって『ウスクダラ』としてリリースされた。）

23. キュルディリ・ヒジャーズキャル・ロンガ Kürdili Hicazkar Longa（キュルディリ・ヒジャーズキャル旋法によるロンガという舞踊曲 。ケマーニ・セブフ Kemani Sebuh［1828-1894］作曲。）

トルコ行進曲やパソドブレなどは，伝統的なトルコの楽曲以外にもカーヌーンが適応できる楽器であることを示す好例となった。

マカームの説明では，トルコ特有の微分音についての言及や，音の上行・下行による変化などについても解説が行われ，日本や西洋とは異なる音楽理論を実演とともにわかりやすく説明していただくことができた。

箏との比較も射程に入れていたため，当初は福永氏による演奏も予定していたが，直前までカラドゥマン氏の来日スケジュールが確定しなかったため，当日福永氏は他の予定が入っており，残念ながら参加不可能となってしまった。トルコからの音楽家招聘とりわけ文化省所属の演奏家は，常にスケジュールが間際まで動くということが問題で，どの招聘元も頭を悩まされている。時間の価値観が違う国との連携は極めて難しいが，音楽学課程の荒池さんをはじめ，諸所の職員の方々の協力を得て，なんとか成立できたことに感謝したい。

箏の演奏は，福永氏が育ててくださった２名，当時３年の清水亜里沙と，本学音響学専攻の大学院を修了して現在演奏家として活躍している吉澤延隆が担当することとなった。吉澤は箏の国内コンクールとしてはたいへん権威ある賢順コンクールで優勝し，NHK の芸能花舞台においても期待の若手の一人としてとりあげられるなど，箏演奏家としての今後が期待される新人である。

清水は沢井比河流（1964-）による1991年作曲、第14回文化庁舞台芸術創作奨励賞グランプリ受賞作品の『射影』など２曲，吉澤は沢井忠夫（1937-1997）の『鳥のように』を演奏した。

同じツィター系で，両方とも義爪をつけて奏する楽器であるが，弦の張り方，音質，義爪のつけ方など，様々な点で相違点があることなどが，両者を並べて比較することができ，学生たちには大きな発見となった。箏で演奏されたばかりの一節をカラドゥマン氏が即座に模倣するというような場面もあり，氏の高い音楽能力を随所に見ることのできる機会となった。

III. 今後の社会還元

当日は，音楽学課程非常勤講師の鈴木和秀先生にご協力いただき，録音を行っている。別途助成金を申請して，CD 出版を計画している。演奏曲目の追調査は，同年９月および2012年３月にトルコにて行った。

なお，本研究に基づく成果の一部は，2012年３月出版の東海大学教養学部紀要第42号「トルコ古典音楽におけるマカーム構造――構成音列の多面的様相を中心に」においても公表している。

末尾ながら，本研究に多大な協力をいただいた故ハリール・カラドゥマン氏の突然の死に深い哀悼の意を表するとともに，ご冥福を心よりお祈りする。